

平成 30 年度 第 3 回 特別史跡熊本城跡保存活用委員会  
文化財修復検討部会 議事録（要旨）

日 時：平成 31 年 3 月 28 日（木）10 時 00 分～11 時 45 分

会 場：市役所議会棟 2 階 予算決算委員会室

出席者：平井委員長、吉田部会長代理、北野委員、長谷川委員、山尾委員、千田委員、宮武委員、北原委員  
伊東委員

文化庁 文化資源活用課：五島調査官

熊本県文化課：角田指導主事、豊永学芸員

文化振興課：濱田課長、西川主任技師

熊本城総合事務所：田代所長、津曲首席、野本副所長、濱田副所長、古賀技術主幹、城戸主査、源主査、戸高主査、田代技術参事、江淵主任技師、永井（宗）技師、永井（明）技師、森口技師、馬渡主任技師、増田主任技師、河田主任技師、立石主任技師、黒崎主任技師、今村主任技師

熊本城調査研究センター：渡辺所長、網田副所長、鶴鳴文化財保護主幹、金田主査、岩橋文化財保護参事、山下文化財保護参事、下高文化財保護主任主事、嘉村文化財保護主事、河本文化財保護主事

大林組、中村石材、文化財建造物保存技術協会、文化財保存計画協会

1. 開会

2. 熊本城総合事務所 所長挨拶

配布資料確認

3. 前回部会での意見と対応策について【資料 1】

吉田部会長代理	本日は田中部会長が欠席のため議事進行を吉田が代行させていただく。議事に入る。次第 3 「前回部会での意見と対応策について」事務局より説明をお願いする。
事務局	（資料説明）
吉田部会長代理	事務局より説明があったが、質問等あるか。 （特に意見なし）

4. 報告事項 （1）石垣・構造解析合同ワーキングについて【資料 2】

吉田部会長代理	では報告事項について、（1）「石垣・構造解析合同ワーキングについて」事務局より報告をお願いする。
事務局	（資料説明）
宮武委員	【資料 2-2 の図③】で見ると、小天守入口は盛土の被覆状況になっている。最上段まで盛土になる可能性があって、さらには、石垣 H509 の前には裾を広げないと収まらない

	<p>だろう。本来の石段を見学対象とするために床の一部をガラス等にする事務局案がある。完全に埋めるか、見せるためにテラス状に盛土の調整をするか。それによって外観の状況が変わってくる。ワーキングなどで修景のパス図を出して、素材など細かなことを提示してほしい。小天守の外部はガラス製高欄でスロープを作っていくという意図は理解した。反対側の大天守出口部分については、階段とスロープは手摺り付きにしたりするのか。全然素材もデザインも違うものが並んでしまう。</p>
事務局	<p>大天守出口は地震前の復旧が可能であり、元の黒い高欄のデザインとしている。小天守入口の部分に関しては今までとは違う形で、バリアフリーに配慮して、現代的なデザインで震災後新たに付加されたものと明確に認識できるようにしていたもの。</p>
千田委員	<p>関連して、小天守入口のスロープだが、石門の方に降りていく急な石段がある。これは以前から非公開の部分であったが、熊本城の巧みな設計を実感できるどころ。元々の状況の写真のパネル等を設置して、旧状を示す工夫をして欲しい。</p>
北野委員	<p>【資料 2-2 の図 4】に関して、石垣 H523 から来城者を遠ざけるためにこのトキ櫓石垣をまたぐような導線になったようにこの説明では見える。この導線が決まったのは、別の 3 案から総合的な判断の中でこのルートが選択された。石垣 H523 という石垣は石垣ワーキングの中でも比較的安定性の高い石垣であった。これを危険だから避けるルートにしているが、それでは大天守周りの石垣はすべて危険性が高いようにも捉えられてしまう。石垣ワーキングの中でも、石垣は危険であるという話はなかった。</p>
宮武委員	<p>本来旧石垣から離すことである程度危険度を低下させると考えていた。トキ櫓石垣から続いてくる石塁に沿ってスロープが続いているが、トキ櫓石塁の修理が必要となれば、またスロープを外さなければならなくなる。</p>
事務局	<p>事務局で検討しているのは、大天守の石垣から離すこと。また、トキ櫓から続く石塁はそこまで高くない。また変状も見られない。平面的にはスロープは折り曲げる案も検討している。イメージとしてこのような規模のスロープができるということをお知らせしたものの。実際、大小天守前には地下埋設物やマンホールがあり、石垣含め、それらを避ける必要がある。</p>
宮武委員	<p>江戸期のオリジナルの石垣に対して危険であるとしているが、一方で石垣の横にスロープが付いている。検討素材としての図であるとしても、矛盾したものが出ている。北野先生ご指摘の通り、大天守台の石垣についても昭和に積み直しされた石垣が事実上のハバキの効力を持っていたわけだから、強くなかったという解釈で行くと、後々他の遺構の解釈をする際にはあまりいい影響を与えない。</p>
吉田部会長代理	<p>小天守スロープの位置は修正、大天守出口とのデザインの関連性、資料 2-2 の図 4 の説明について修正、変更あるいは再検討をお願いします。それ以外の基本的なところに関しては了解でよろしいか。</p>
事務局	<p>大天守出口と小天守入口のデザインは統一すべきか。</p>
千田委員	<p>大天守出口は、後世のものである以上、後世に設置されたものとわかる意匠にするのは必要なこと。小天守側をガラス製高欄にするのであれば、大天守出口も変更するのがキレイで納まりがよい。</p>

平井委員長	大天守出口の手摺については全く議論に出てこなかった。すべて同時に議論すべきだったのではないか。ワーキングで相談するときは基本的な部分を全て出す様にしていきたい。
吉田部会長代理	事務局でもう一度議論するように。
北野委員	小天守のガラス製高欄については基本的に了承されている。
事務局	大天守出口に関してはもう一度事務局で検討して資料等を今後提示する。
北野委員	報告事項で部会の了承を得た内容報告を受けた。結果だけ聞いているが、合意に至るプロセスの中での異論や問題点も公式の記録として残すこと。

<b>4. 報告事項（2）構造解析ワーキングについて</b>	
吉田部会長代理	それでは、（2）「構造解析ワーキング」について事務局より報告をお願いします。
事務局	（資料説明） 意見特になし。

<b>4. 報告事項（3）石垣ワーキングについて【資料3】</b>	
吉田部会長代理	それでは、（3）「石垣ワーキング」について事務局より報告をお願いします。
事務局	（資料説明）
山尾委員	資料には示されていないが、小天守北面のコーナーはどのようになっているのか。
事務局	小天守北側は石垣ワーキングで検討した範囲を解体して、現在復旧作業に入っている。
山尾委員	北面は被害が大きかったように思うが。
事務局	北面は被災も大きく、北東角は経年的な変化が大きい場所なので解体範囲も広い場所になっている。
北野委員	小天守の石垣復旧について、資料では了承ということになっているが、ここにあげている資料はあくまでも外面の解体範囲あるいは復旧勾配に関する資料である。内部の断面構造の資料などは一切省いている。基本的に設計というのはそのような資料をすべて含めたものである。ワーキングでもいくつか議論があった。内部から見つかった築造過程に関する遺構の取り扱いについて様々意見があった。提案されたもの丸々了承した訳ではない。
宮武委員	再発防止など様々な課題を抱えている状態の中で、被災後最初の本格的な解体から修復に向けての作業であり、やむを得ない部分があり後悔する部分も多くあった。手順的なところで見落としなどが出てくると思う。 通常特別史跡の石垣の積み上げ工程では、文化財担当者が張り付くことになる。積み上げ工事に文化財担当者の常駐はできているのか。
事務局	日に1度程度見に行くが、現場の状況は把握できている。
宮武委員	現場で勝手に進めてしまう可能性もゼロではない。原則、現場が稼働しているときには文化財サイドと一緒に見ることが史跡級の文化財石垣復旧である。施工終了後の管理はどのようにしていくのか。
事務局	レーザーと写真測量を実施して、解体した範囲と新補材を見分けること、さらに間詰石に

	関しても新補材の管理をしている。今後発注していく中では、大小天守外側の石垣で経年的な変化がみられるように変位観測ができるようなターゲットを残す。
長谷川委員	石垣の補強について構造ワーキングで検討しているが。主として重要文化財建造物下の石垣の補強を検討していて、同時に飯田丸五階櫓の補強方法についても検討している。一方で、要人櫓の下については、積み直さずに残して補強すると検討しているようだが、どのようなものを検討しているのか。
事務局	事務局として解体は最終手段だと考えている。解体しない補強案とて、城内にあるようなハバキ石垣を設けるなどを検討する。
長谷川委員	ハバキ石垣等を設けると景観が大きく変わってしまうのではないか。
宮武委員	ハバキ石垣は江戸期の熊本城でも盛岡城でも実例がある。オリジナル性と景観のどちらを優先するかという話になる。先ほど文化庁に災害復旧の中でハバキ石垣のような新しい構造物が付加されるのは災害復旧の原則としてどうかと聞いたが、当該の文化財を守るための方策としてならば可能という話だった。
山尾委員	例えば、積み直すことなく、石垣の目地部分からアンカーを打ち込んで固定することもできると思うが、文化財的にハバキ石垣で景観を変えるのとどちらが良いのか。
宮武委員	アンカーを打ち込むこともワーキングで検討した。要人櫓の石垣にアンカーを打ち込むと内部の飯田丸五階櫓の石垣に当たる可能性がある。要人櫓上にトレンチを入れるのは、裏の石垣を確認する意味。アンカーは文化財的にも、景観的にも良いのではないかと考えたが、当たる可能性が高い。

<b>4. 報告事項 (4) 建築ワーキングについて【資料4】</b>	
吉田部会長代理	それでは、(4)「建築ワーキング」について事務局より報告をお願いする。
事務局	(資料説明)
吉田部会長代理	補強材の色については、場所ごとではなく熊本城内で統一した方が良いのではないかと。長堀復旧の中で新たに筋交いの補強が行われるが、従来のものとは違うものだとすることを明示したほうが良い。
事務局	補強材の色を決めていくうえで、ご意見を参考にさせていただく。実際に現地で色を確認する。
吉田部会長代理	【資料4】のイメージ図と標準断面図のスケールを合わせてほしい。
事務局	イメージ図と標準断面図は設計する前の段階のもの。断面形状・サイズ感が異なっているので今後調整する。補強材の色についてはステンレスであり焼き付け塗装で色も選べる。

5. 総括

6. その他 (事務連絡)

7. 閉会

